

# Un jour

## アンジュール

—性別・世代・時代を超えて—

アンジュールはフランス語で「ある日」という意味。一人ひとりの「ある日」を紡いでいきたいという願いを込めた情報紙です。



↑平成 25 年 1 月 26 日の市民活動企画展(カダールフェスタ)オープニングイベント「みんなのファッションショー2013」。思い思いの衣装を身にまとい、性別にも、年齢にも、国籍にとらわれない「自分らしさ」の表現を競いました。一人ひとりが主役です。

■農山漁村女性の日  
毎年3月10日は「農山漁村女性の日」です。農山漁村女性の役割を正しく認識し、適正な評価への気運を高め、女性の能力の一層の活用を促進することを目的に、農林水産省により定められています。

現在、私は、青森市浪岡地区に住んでおり、浪岡ホットアップルサイダーの製造などを通じて、農業(りんご生産)と出会いました。農業が基幹のこの地に暮らして、生産者が雨の日も風の日も、猛暑の日も雪の日も、りんご園地で働き、最近の異常気象にも大きく影響を受けながら、生産と生活が結びついた毎日を営んでいることを実感しています。



で、消費者ニーズが多様化し、経済がグローバル化する中で、従来、女性が加わっていなかった分野に女性の発想・企画力・行動力等を取り入れ、地域資源の新たな魅力や価値の発信、他の地域にない特色ある新たな商品・サービスの開発を行うことが求められています。

一人の力には限界がありますが、多様な人材を活用し、ネットワークを広げながら、女性がエンパワメントしつつ積極的に活動し、社会参画の一步を踏み出していく!「農山漁村女性の日」はそんな「気づき」の日になればいいなと思います。

(塚本)

## アンジュール VIEW (びゅう)



■「体罰」を考える  
大阪の市立高校で体罰があり、男子生徒が自殺した事件。あの体罰の実態は明らかに「暴力」。そして、男子生徒に行われたことは人への尊重の欠落。何かをなすため、目的を遂行するためという大義名分のもとに体罰Ⅱ暴力をすることは、あつてはいけない。人と人が尊重し合い、暴力のない社会を目指すことは、

様々な事件を防ぐことになると改めて思ったニュースでした。

■デートDV予防講座  
平成16年以来、延べ8万人以上の中・高・大学生に対してデートDVの予防講座を実施している長崎県のNPO法人DV防止ながさきの話聞く機会がありました。

すでに高校生で交際相手からの暴力を受けている子どもたちもおり、中学生からの予防講座が大切であると感じました。

また、多くの子どもたちがDVの知識を持つこと、人を大切に思い、尊重することを学ぶことにも加害者にもならず、男女関係だけでなく、人と人とのよりよい関係を作ることにつながると、強く感じました。

青森県内で取り組んでいる学校はまだ少数です。多くの学校で取り組んでくれたら、と思うのです。

(森)

### 「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで  
あなたを大切に思う

性別を超え  
世代を超え  
時代を超え

人と協調し 人を信頼できる  
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして  
青森はここに「男女共同参画都市」を  
宣言します。

平成8年10月22日 青森市

### 特集

## できることから始めよう

男女共同参画社会の実現までの道のりは、まだまだ遠い。でも、千里の道も一歩から。例え小さな一歩でも、積み重なれば大きな力になります。お互いを大切にする気持ちを持って、今日から踏み出せる一歩を一緒に考えてみませんか?



### 哀悼

- ◆ 日本国憲法の男女平等条項を起草したベアテ・シロタ・ゴードンさんが平成24年12月30日にニューヨークで亡くなりました。89歳。憲法草案と男女平等をテーマに、青森市でも平成9年と20年に講演。棟方志功とも深いかわりがあり、青森とは縁が深い方でした。
- ◆ 青森市議会初の女性議員、藤田美栄さんが平成25年1月11日に青森市内で亡くなりました。100歳。アンジュール2号から6号には、全5回にわたり「藤田美栄さんのトークンエッセイ・私の青森女性史」が連載されました。

#### <発行>

青森市市民生活部市民協働推進課  
男女共同参画室  
〒030-8555 青森市中央 1-22-5  
☎ 017(734)2296 FAX 017(734)5232

#### <企画編集員>

白井壽美枝・阿部美智子(NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会)、森昭美(NPO法人ウィメンズネット青森)、塚本艶子(ネットワークA・L)

転載希望の方はご連絡ください。

#### ●女性の悩み相談カダール相談室●

パートナーからの暴力の悩み、自分自身の生き方や家庭のことでの相談など、女性相談員が応じます(面接相談・電話相談)。ひとりで悩まず、ご相談ください。  
【時間】休館日(毎月第2水曜日)を除く毎日9:00~22:00  
【場所】青森市男女共同参画プラザ「カダール」※十分な時間をお取りするため、事前に相談日時等についてご相談ください。  
【お問合せ】☎017-776-8858  
(休館日を除く9:30~21:00受付)

#### ・・・青森市の男女共同参画拠点施設・・・

- \* 青森市男女共同参画プラザ「カダール」(青森市新町1-3-7アウガ5・6F)  
【開館時間】 9:00~22:00  
【休館日】 毎月第2水曜日  
【電話】 017(776)8800  
【FAX】 017(776)8828
- \* 青森市働く女性の家「アコール」(青森市勝田1-1-2)  
【開館時間】 9:00~22:00  
【休館日】 毎月第2日曜日  
【電話/FAX】 017(723)1700



**家事も育児も一人でがんばるって、正直つらい。**

**仕事が忙しくて大変だけど、家族との時間も大事にしたい。**

「男は仕事、女は家庭」という意識が社会に根強く残っているのも事実ですが、最近は、「イクメン」「イクジイ」「カジダン」といった、積極的に家事や育児に参加する男性も増えています。

男女がともに働き続け、健康で豊かな生活を送るためには、家庭の中でも、男だの女だのと言うことなく、つらいときには頼り、つらそうなときには助ける、そんな関係が必要です。すぐに相手の役割をシェアすることができなくても、これまで当たり前だと思ってきたことにも「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることが、お互いに喜びと責任を分かち合う第一歩となるはずです。

また、家事や育児を、一人だけはもちろん、親だけでがんばらない、家族や社会のサポートをフル活用するというのも、アリですよ。

**がんばりすぎずに、頼り合い、助け合ってお互いにちょうどいいバランスを探しましょう！**



**震災のとき、避難所に女性用の更衣室がないところもあったとか。いろんなところに、女性の声がきちんと届いていないのかも。**

意思決定の場にまだまだ女性が少ないのが現状。スイスの非営利団体「世界経済フォーラム」が発表した平成 24 年の「ジェンダー・ギャップ指数」では、なんと日本は135か国中101位。これは、政治・経済分野で男女格差が大きい（女性の参画が少ない）ことが原因となっています。

男女のニーズの違いにしっかりと対応していくためには、もっと多くの女性が積極的に意思決定の場に参画していくことが求められます。

また、そのためには、女性自身が力をつける（エンパワーメントする）ことも大切ですね。

**女性も積極的に市の審議会委員などに応募を！**

だから

必要なのは、相手を思いやる気持ち。男女共同参画社会を実現するために

今やこの世の中を一緒に生きてみませんか？

**できることからはじめよう**



私は私を大切に思うのと同じ重さで

あなたを大切に思う・・・



**殴る蹴るはないけど、夫の言葉や態度が威圧的。夫は「亭主關白なだけ」と言うけど、私は苦しい。**



**メールにすぐ返信しないと怒るし、自分以外の男と話すなって言う彼。私を愛してるからって。**

上の例はどちらもDV（ドメスティック・バイオレンス）。殴る、蹴るといった身体的暴力だけでなく、大声でののしる、無視するなど、精神的苦痛を与える行為もDVです。最近は、配偶者間だけでなく、交際相手からの暴力も「デートDV」と呼ばれ、問題となっています。

DVは、女性が被害者になることが多く、これには、男性が女性を下に見て、支配しようとする意識が働いているとされています。

男女は平等。対等な関係の中で、常に相手を不快にさせない思いやりの気持ちを持つ。恋人間も夫婦間も、お互いを大切にできる対等なパートナーでありたいですね。

※カダール（男女共同参画プラザ）では、女性の悩み相談を実施しています。DVを含め、悩みごとがある方は、一人で悩まず、電話017-776-8858へ。秘密は守ります。

**束縛は愛じゃない！言葉や態度で与える精神的苦痛も暴力だと知りましょう！**



**自分を変えるきっかけがなくて・・・**

カダール（男女共同参画プラザ）とアコール（働く女性の家）では、様々な講座を用意して、皆さんのお越しをお待ちしています。そこでの新しい仲間との出会いも、きっといい刺激になり、気づきの機会を与えてくれるはず。お気軽にお越しください！

**そうだ、カダール・アコールに行こう！**

「日本女性会議2002あおもり」から10年



うねりをさらに広げよう

「日本女性会議 2002 あおもり」から 10 年。大会アピールでは「すべての人が主体的に生きられる社会を目指す」と合意しましたが、10年の成果と課題は？ 豊かな未来を目指し、次のステップに進むために、10周年記念事業実行委員会が結成されました。

実行委員会では、3月24日（日）に記念講演会と記念交流パーティを開催します。パーティでは、同窓会的なニュアンスを持ちながらも新しい仲間との出会いが期待されており、参加は当時の実行委員に限りません。

また、2002年の会議で参加者へのお土産にもなった、青森市が誇る芸術家・故鈴木正治さんの絵葉書を復刊。さらに、5月には、10周年記念冊子の刊行も予定しています。

<日本女性会議 2002 あおもり>

平成14年10月4日～5日、旧青森市で開催。全国から約3,000人が参加。日本女性会議初のインターネットライブ中継を実施。実行委員205人のほか、企業、団体、ボランティアの協力多数。生の感動にこだわった二つの会場でのセレモニー、ねぶたの里での交流会などは、今でも語り草。

＜記念講演会・記念交流パーティのご案内＞ ★参加はどなたでも★

■開催日 平成25年3月24日（日） ■会場 わいん倶楽部（新町二丁目）

■内容 13:30～15:00 記念講演会・・・参加費：無料

講師：江原由美子 首都大学東京副学長

テーマ：「女性会議から10年一次世代へどう引き継ぐかー」

15:20～17:20 記念交流パーティ・・・参加費：4,000円（写真代を含む）

■問合せ・申込み 日本女性会議 2002 あおもり 10周年記念事業実行委員会事務局 青森市男女共同参画プラザ「カダール」（電話 017-776-8800）